

徳之島町 町誌編さん だより

(徳之島町内全戸配布)

第 12 号

2021. 02. 10

はやり病 —繰り返された「病との闘い」に思う—

よねだ ひろひさ
米田 博久 (郷土資料館館長 兼 徳之島町誌編纂室室長)



令和 2 年は 1 年中「新型コロナ」に振り回されました。中国の武漢で感染が確認され、またたく間に世界中に蔓延して多くの人々が亡くなるとともに、国によっては外出禁止令が出され、世界中の生産・流通が麻痺してしまいました。

今回の新型コロナ騒動によって世界中で起きた「ロックダウン」を見ていて、江戸時代から昭和初期まで徳之島でたびたび発生した「はやり病（流行病）」のときの対応と同じなので驚きました。しかし昔の人たちの対応は、今回日本政府が取った施策よりももっと機敏だったように思います。

江戸時代の人たちは、どこかの村で天然痘が発生したと聞くとすぐに村の封鎖をして他村との交わりを断ち、まず人の移動を禁じました。代官所も、もし鹿児島あたりでも流行しているとの情報を得た場合、船で島に上陸しようとする者に対し、一定期間下船することを禁じて待機を命じました。まるでクルーズ船の対応を見るようです。どんなに文明が発達しても今も昔もやれることは同じなのだと思います。新型コロナの体験を通して、昔の人たちがどのような気持ちで感染症と必死に闘ったかを私も実感できました。

たとえば徳之島では、記録が残る 1700 年代の初めにはすでに天然痘（昔は疱瘡と言った）に苦しんでいたことがわかっています。天然痘はほぼ 25 年周期で流行しますので、ある程度時期を予測できましたが、残念なことに当時は治療法がありませんでした。

天然痘に感染すると 10 人に 1 人は死亡します。治った人も顔や体にひどい傷跡が残りました。ですから感染しないように必死でした。しかしできることと言ったら、村の出入り口を封鎖してどんなに切実な事情があっても絶対に人を入れないようにすることぐらいしかありませんでした。それでも村内で流行して手遅れになったときは、村を捨てて患者がいなくなるまで山の中に籠り、そこから畑作業に出ました。

半年もすると感染は収まるのですが、島内で数千人から 1 万人余りの人が罹り、多いときには一度に 2000 人も亡くなりました。各村に残るトゥール墓の多くは、天然痘などの流行病で亡くなった人たちの頭蓋骨を納めた墓だと言われています。

徳之島における天然痘は昭和 20 年ごろまで続いて消滅しました。しかし、2003 年に流行したサーズコロナウイルスや 2012 年に広がったマーズコロナウイルス、そして今も感染が続いている新型コロナウイルスと、いつまでたっても人類と流行病との闘いは終わりそうにありません。私たちは今回の経験をしっかりと検証して、次回に備えることが大事です。

(令和 3 年 1 月 4 日脱稿)

『広報 徳之島』掲載の「町誌編さん室の 島のむんがたり」をご覧になりましたか？

『徳之島町史』本編（通史編・地域編・自然編）の刊行に先立ち、昨年12月から『広報 徳之島』の誌面に「町誌編さん室の 島のむんがたり」を連載しています。皆さんはもうお読みになりましたか。これまでのタイトルは下記のとおりです。

令和2年12月号 第1回 「150年前の巨大イノシシとの格闘」（竹原祐樹）

令和3年1月号 第2回 「闘牛の敗北の苦い記憶と家の『誇り』」（大村達郎）

今後、さらにさまざまな話題を提供するべく、室員一同張りきって取り組んでまいります。どうぞお楽しみに！！

徳之島町誌叢書(3)『徳之島町「民俗文献」選集』〈非売品〉が刊行間近です！

目下、当室では、徳之島町誌叢書の第3弾として、『徳之島町「民俗文献」選集』の編集にあたっています。

徳之島島内には、大学や専門的な研究機関がないため、島内在住者や出身者たちが多大な努力を重ねるかわら、島外から多くの研究者や学生たちが来訪しています。戦前から現在に至るまで、その調査成果が専門書や報告書に公表され、歴史的な事柄の解明が続けられています。このたびの町誌叢書は、そうした研究成果の中から、町内の特定の集落を直接訪れて得られた、昔ながらの生活のしかたや、伝統文化、伝承などを記した文献（記録）や聞き取りデータを、町民の皆さんの調べもの学習に役立てていただけたら、と考えて企画したものです。また、来年度後半に刊行を予定している『徳之島町史』地域編と読み比べつつ活用していただければ、各集落の生活文化の豊かさを実感していただけることと思います。

町内すべての集落にわたって選ぶことはできませんでしたが、大まかな主題を示せば、「集落で守っているカミサマや聖地」、「結いわく」、「スイジンサマとその祭り」、「一重一瓶」、「シマの若者や娘の活動」、「シマに伝わる英雄（按司や開拓者）の伝承」、「お盆の過ごし方」、「葬式の作法」、「シマに伝わる芸能と唄」、「昔の家屋の利用方法と徳之島における特徴」、「シマの伝統行事」などというように、各シマジマに特徴的な内容が丁寧に調べられています。他のシマの事柄を知ることによって、ご自分の住んでいる地区の事柄を整理するきっかけにもなると思いますので、ぜひともご活用ください。

興味・関心がおありの方は、町立図書館、もしくは町内小・中学校、各地区駐在員宅あてに配布しますので、最寄りの場所をご覧ください。

町誌編さん事業日誌（抄）

年	月 日	内 容
令和2年	11月28日	先史・古代・中世部会会議（調査の進捗状況の確認、執筆要綱の確認）および分布調査実施。
	11月29日	近世部会 Web 会議（第1回）（調査の進捗状況の確認、執筆内容の検討）
	12月1日～	『広報 徳之島』12月号より「町誌編さん室の 島のむんがたり」連載開始。
	12月14日	徳之島町誌叢書(3)『徳之島町「民俗文献」選集』編集作業開始。
	12月末	民俗部会・地域文化部会「地域編」調査報告（レポート）提出。

今後の町誌編さん事業予定

年	月 日	内 容
令和3年	2月中旬	徳之島町誌編さん審議会会議（委員の委嘱更新、各部会活動の報告 等）開催予定。
	2月中旬	近世部会会議（調査・執筆の進捗状況の確認、執筆要綱の確認）開催予定。
	2月下旬	徳之島町誌叢書(3)『徳之島町「民俗文献」選集』刊行予定。
	3月末	自然部会「自然編」原稿提出締め切り。

徳之島町 町誌編さんだより 第12号

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

徳之島町生涯学習センター3階（徳之島町郷土資料館内） 電話番号：0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

本紙編集担当：大村達郎

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂(へんさん)」の表記を使用しています。本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。なにとぞご了承ください。

※ 徳之島町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。

